

特定非営利活動法人かしわのもり れんがの家（北海道鹿追町）

●事業の概要

【団体の概要】

- 2002年設立。訪問看護事業、相談支援事業、北海道小児等在宅医療連携拠点事業等を実施。

【事業の概要】

- 民家を改修・増築し、認知症対応型通所介護事業（定員12名）、カフェ、交流スペースを運営。訪問看護事業、相談支援事業の拠点とする。

【施設デザインの特徴】

- れんが造りの旧民家の既存部分を可能な限り活かして改修し、室内・室外共に面影を残す「家」のような温かさがある施設に。
- 庭に面する廊下部分を、全面ガラス張りの広い縁側空間として、あらゆる利用者が憩える場所として整備。



●地域の概要、解決を目指す地域課題など

- 本施設は北海道の道央十勝地域に位置する鹿追町で、市街地エリアの端、農地との境界に接する場所に立地している。周辺は、徒歩圏内に小学校、中学校、認定こども園などの子どもが集まる施設や、老人福祉施設が近く、人が集まりやすい場所にある。
- 一方、地域には住民が気軽に集まって活動できるスペースが不足しており、医療的ケア児やその家族など孤立しやすい人が安心して集まれる場所が少なく、課題となっている。

●事業のコンセプトなど

【コンセプト】

- 福祉施設として医療的ケア児やその家族、発達障害の子どもとその家族、認知症の高齢者といった地域での生きづらさを抱えている誰もが、日常生活の中で生きる喜びや、田舎暮らしを誇りに思える拠点となること。

【地域との関わり】

- 地域で大切にされてきた地元の名士の旧家を活用することで、土地の記憶を大切に、福祉機能と地域住民が集まれる機能を持ち合わせた、誰もがここにいていいと思える空間を作る。

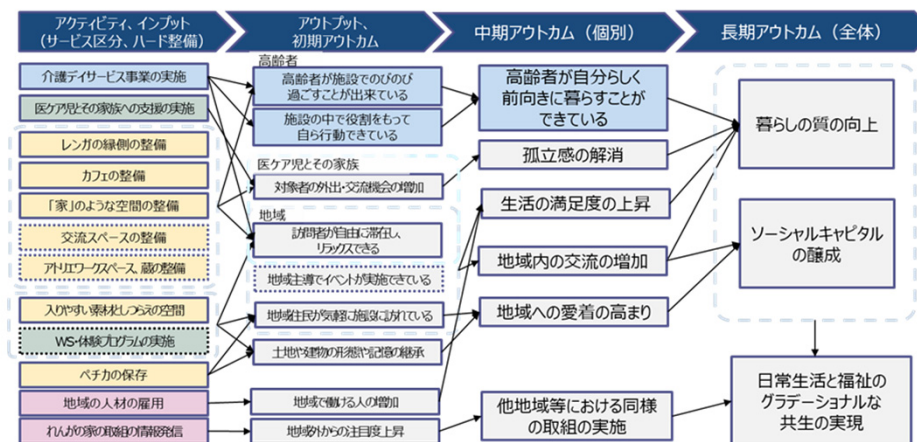
れんがの家は「入りやすさ」をコンセプトに掲げており、建築デザインとしての工夫だけでなく、構想時点から地域の人々にも関与してもらうことができるように、ワークショップを開催して、一緒に作り上げる活動を行ってきました。地域の人々とのワークショップは施設開設後も、続けています。

担当者の声



●ロジックモデル

- 利用者、地域住民、従業員の行動変容を通じて長期アウトカムの発現を目指す



●実現した効果

【アンケート調査】利用者

施設でのびのびと過ごせている	施設の一員として役割があると感じている	自分らしく生活できている
86.2%	51.7%	86.2%
生きがいをもちて暮らせている	外出頻度「ほとんど出かけるない」	生活満足度「満足」
82.8%	80%→10.3%	20%→55.2%

地域住民

地域で頼れる人が増えた
42.8%
地域での知り合いの数が増えた
50.0%

従業員

働くことにやりがいを感じる
100.0%
今後、行事やイベントに前向きに取り組みたい
60.0%

- 【定性的な効果】・日本建築学会 作品選集 2026、グッドデザイン賞 2025、HKデザインアワード入賞、日本建築家協会 優秀建築選 2025 100選、日本空間デザイン賞 2024 サステナブル空間賞、JID AWARD 2004 銀賞を受賞
- 施設の視察も多く（開所約1年間で48件）、注目されている



●総括

【通所介護事業利用者の自分らしく前向きな暮らしに寄与】

- 施設で過ごす時間について、8割以上が「のびのびと過ごせている」と感じており、施設で過ごす時間を「生きがい」とあげる利用者も見られることから、前向きな気持ちで施設を利用している利用者が多いことが確認された。
- 外出頻度の上昇や生活満足度の上昇も見られることから、本施設の利用が利用者の前向きな生活に寄与していることがうかがえる。

【地域の人の交流の増加】

- 地域住民に対する調査結果からは、来訪経験のある住民は、そこで地域の人同士の交流が発生し、知り合いや頼れる人の増加につながっていることが確認された。